

平成26年度東アジアプロジェクト研究報告

○プロジェクト名

東アジアにおける文化伝承の研究

○研究組織

研究代表者：阿部泰記・湯川洋司

研究分担者：森野正弘・根ヶ山徹・更科慎一・高橋征仁・坪郷英彦・富平美波・馬彪

研究協力者：

○研究の概要と結果

1. 『源氏物語』の音楽描写を対象として、他作品や楽書に見られる逸話・説話を参照しつつ、分した。研究成果の一部を、単著論文「冷泉帝の行幸における舞と音楽」（『新時代への源氏学 第6巻 虚構と歴史のはざまで』竹林舎、2014年6月）、及び、単著書『源氏物語の音楽と時間』として刊行した（森野）。
2. 本年度も『牡丹亭還魂記』を対象として、特に臧懋循・馮夢龍等の手に成る改訂本と、その後続版本に重点をおいて分析した。明清両代に上梓された『牡丹亭還魂記』の版本18種、曲譜3種を校合し、『牡丹亭還魂記 匯校』を作成した。提要（『牡丹亭還魂記』版本系統試探）において明末から清中葉に至る版本の演变について詳述した。単著書『牡丹亭還魂記 匯校』として刊行した（根ヶ山）。
3. 本年度は善書出版で著名な善成堂の山東聊城支店が出版した宣講書『宣講宝銘』が民国時代に至って上海から石印本として再版され、全国に普及して行った様子をテキストを収集して明らかにした。特に武漢大学において宣講書『宣講宝銘』の石印本を収集し、宣講書が石印出版されることによって全国に普及して行った様子を知ることができた（阿部）。
4. 前年度の研究結果を更に深化させるべく、ベトナム語、チャンバ語などを表記した会同館系『華夷訳語』の音訳漢字の分析を行い、明代中国の異言語研究の一端に対する理解が深まった。『元朝秘史』に関しては、関連書籍を渉猟し、最新の研究概況の把握に努めるにとどまった。なお、成果の一部を、「明代の言語学習書『華夷訳語』における外国語音声の表記法について」の題目で、2015年度に刊行予定の『東アジア研究叢書3』に発表するつもりである。（更科）
5. 「切字釋疑」（すなわち『古今釋疑』巻十七）の第3節「門法之非」の訳注作成作業を続行した。主要な課題としては、国内所蔵の『古今釋疑』の版本・抄本を調査し、さらに各種の文献資料によって著者方中履の生涯をたどって、『古今釋疑』の成書と出版の経緯をできる限り明らかにしようとした。その結果を「方中履『古今釋疑』の執筆と刊行について」と題する論文にまとめて、公表した（『アジアの歴史と文化』第十九輯 2015.3）。（富平）
6. 前年度に引き続き、沖縄県における震災避難者を取り上げ、逆境と再生の物語がどのように紡がれていくのか、事例研究を行った。那覇市および岡山市において、震災避難者に対するインタビュー調査を行った（8月23～27日）。避難の経緯や家族関係によってレジリエンスやトラウマ後成長に大きな違いが生じていることがわかった。（高橋）

7. 秋田県仙北市及び宮城県石巻市周辺の屋根葺き習俗を調査し、関東以西の手法との差異を明らかにした。西日本の屋根葺き習俗、特に技術及び職人組織との違いが明らかになった。具体的には棟仕上げ、鉾竹の使い方、衰退期の組織化である。成果の一部は6月に日本茅葺き協会総会で発表予定。(坪郷)
8. 今年度は、置賜民俗資料館が発行した館報、収蔵資料台帳の確認を中心に資料収集し、その内容を整理した。(湯川)
9. 中国黄河中流流域における古関遺跡の踏査を行い、特に中国山西省における古道と関址を調査した。秦帝国の北方地域における一部の関塞類型と管理装置の特徴を解明した。成果の一部を「秦晋古道諸関考実」のテーマで、学術雑誌に投稿するつもりである。(馬)

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等(発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ)

- ・阿部泰記、「『触目警心』五巻：湖北の物語宣講書」、『山口大学文学会志』第64巻、2014年2月、1～20頁
- ・富平美波、「方中履『切字釈疑』「沈韻」の条を読む(「切字釈疑」第9節訳注)」、『山口大学文学会志』第64巻、2014年2月28日、97～121頁
- ・阿部泰記、「四川の宣講書『萃美集』五巻：物語化する案証」、『アジアの歴史と文化』第18輯、2014年3月、21～35頁
- ・阿部泰記、「『万選青錢』四巻：簡易宣講書の先駆」、『異文化研究』第8号、2014年3月、51～62頁
- ・富平美波、「方中履『切字釈疑』「方言」の条を読む(「切字釈疑」第10節訳注)」、『アジアの歴史と文化』第18輯、2014年3月31日、1～23頁
- ・森野正弘、「冷泉帝の行幸における舞と音楽」、『新時代への源氏学 第6巻 虚構と歴史のはざままで』竹林舎、2014年6月、187～215頁
- ・富平美波、「方中履『古今釋疑』の執筆と刊行について」、『アジアの歴史と文化』第19輯、2015年3月、1～28頁
- ・高橋征仁、「沖縄県における原発事故避難者と支援ネットワークの研究2～定住者・金地避難者との比較調査～」、『山口大学文学会』第65巻、2015年3月、1～16頁
- ・馬彪、「中国上古三代城郭制の伝統の形成とその性格」、『東アジア伝統の継承と交流』(東アジア研究叢書3) 白帝社、2016年3月、2-27頁
- ・更科慎一、「『元朝秘史』の音訳漢字の声調について」、『東アジア伝統の継承と交流』(東アジア研究叢書3) 白帝社、2016年3月、245～266頁
- ・富平美波、「『切字釋疑』に見える音韻観について」、『東アジア伝統の継承と交流』(東アジア研究叢書3) 白帝社、2016年3月、267～297頁

(2) 口頭発表(発表者名、テーマ名、学会等名、年月日)

- ・高橋征仁「逆境を生き抜く力～レジリエンスとPTG」、関西学院大学阪神・淡路大震災20年企画公開授業「災害復興学～震災バネがつくった私の人生」

<http://www.ustream.tv/recorded/54400790>、2014年10月24日

- ・阿部泰記、「中日王昭君故事比較研究」、長江大学、文学院、2015年4月1日
- ・阿部泰記、「中国非物質文化案例研究—以漢川善書為例」、武漢大学文学院、2015年8月31日
- ・阿部泰記、「包公文化源流研究」、中南民族大学民族学与社会学学院、2015年9月7日
- ・阿部泰記、「中日包公文化比較研究」、長江大学、文学院、2015年9月23日
- (3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）
- ・森野正弘、『源氏物語の音楽と時間』、新典社、2014年9月、494頁
- ・馬彪、『中信国学大典後漢書』、中信出版社、2015年1月、368頁
- ・根ヶ山徹、『牡丹亭還魂記』匯校』、山東大学出版社、2015年4月、423頁
- ・阿部泰記、『宣講による民衆教化に関する研究』、汲古書院、2016年2月、708頁

○プロジェクト名

東アジアの教育におけるグローバル化と伝統文化

○研究組織

研究代表者：福田隆眞、葛崎偉

研究分担者：有元光彦、石井由理、田中理恵、西村正登、松岡勝彦、村上林造、森下徹、
吉村 誠

研究協力者：

○研究の概要と結果

主にアジア地域の教育の現代的課題の一つとして、グローバル化と伝統文化の問題について継続して研究を行った。グローバル化している世界における普遍的な教育内容と、地域や民族が有する伝統文化の教育内容に対して、言語、文化理解、歴史、文学、美術、心理学、教育学、情報学の各分野から教育内容について調査研究を行った。

言語、文学、歴史、情報、教育、文化理解、美術の各分野において、現代的課題としてのグローバル化と伝統文化の教育について、継続的に調査研究を行い、言語、文学の分野においては、主に日本語による言語学、日本文学研究をグローバル化の観点で調査研究を行った。歴史学では都市の形成を対象にグローバル化の観点での考察を行った。文化理解ではアジア地域の音楽教育を事例にして、比較考察を行い、美術の分野では東南アジアを含めて、西洋化と伝統文化の位置づけ、関連性について調査研究を行った。

○研究成果の一覧

- (1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）
- (2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）
- (3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

1 教育学からの研究

- ・田中理絵他 『人間発達論特論』放送大学教育振興会 2015
- ・田中理絵 「児童虐待は家庭の問題なのか」宮寺晃夫編『受難の子ども～いじめ・体罰・虐待～』

一藝社 2015

- ・松岡勝彦 発達障害のある成人における長時間入浴行動の改善－保護者を含めた行動コンサルテーションを通して－ 自閉症スペクトラム研究 11(2), 55-62.
- ・松岡勝彦 自閉症生徒における「乗車中は排泄を我慢する」行動への支援 山口大学教育学部研究論叢, 64(3), 261-266.2014
- ・松岡勝彦 知的発達症のある児童における微細運動スキルの形成－「蝶々結び」に焦点をあてて－. 山口大学教育学部研究論叢, 64(3), 267-279, 2014
- ・西村正登 「シュプランガーの学校改革論」 山口大学教育学部研究論叢 第64巻 第1部 pp.113-126 2014
- ・郭淑齡・石井由理 「台湾の教育政策におけるグローバル化と伝統文化」 山口大学教育学部『研究論叢』第64巻 第3部 1-13頁 2014

2 教育内容からの研究

- ・村上林造 「教育学部における文学講義の試み (1) 一人間にとって現実とは何か」(「青燈」7号 2014.5)
- ・村上林造 「教育学部における文学講義の試み (2) 一人間にとって言語とは何か」(「青燈」8号 2014.11)
- ・吉村誠、山上憶良 「貧窮問答歌(巻五・八九二、八九三)論－家族表現を契機として－(単著) 國學院雑誌 第115巻第10号 2014.10(平26) pp.81~96
- ・吉村誠 研究の現状と教材化－『万葉集』山部赤人「不盡山」歌を通して－(単著) 山口大学教育学部論叢 第64巻第3部 2015.01(平成27) pp.337~pp.350
- ・有元光彦 「音韻ルールの方言圏論」『柳田方言学の現代的意義－あいさつ表現と方言形成論』小林隆編, ひつじ書房, pp.189-207. <単著> 2014
- ・有元光彦 「天草諸島方言の多様性－御所浦島方言・獅子島方言の動詞テ形音韻現象－」『研究論叢(山口大学教育学部)』第64巻・第1部, pp.31-46. <単著> 2015
- ・有元光彦 「感動詞類調査のための「ビデオ質問調査票」の開発について」『感動詞の言語学』友定賢治編, ひつじ書房, pp.255-267. <単著> 2015
- ・有元光彦 「タイプW1方言と方言崩壊－九州南部方言における動詞テ形音韻現象－」『九州大学言語学論集』第35号(言語学研究室創立50周年記念号), pp.299-328. <単著>2015
- ・森下 徹 『近世都市の労働社会』吉川弘文館、2014年7月、全326頁
- ・森下 徹 「城下町萩の武家奉公人」『思想』1084号、2014年8月、82~94頁
- ・石井由理・郭淑齡 (2015) 「台湾の音楽教育における自文化認識」、山口大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』第39号 129-137頁
- ・福田隆眞 「ベトナムの近代絵画と美術教育」山口大学教育学部実践総合センター研究紀要第39号 2015
- ・葛崎偉他 「C言語プログラムの構文木表現」 コンピュータ&エデュケーション, Vol.36, pp.56-61 2014
- ・葛崎偉他 「A Petri Net Model of Internal Organs Based on Five-Elements Theory of

Traditional Chinese Medicine」 Proc. ITC-CSCC2014, pp.990-993 2014

・葛崎偉他 「東洋医学に基づいた五臓六腑と経絡のペトリネットモデルの提案」 電子情報通信学会信学技報. vol. 114. no. 313, pp. 141-146 2014

○プロジェクト名

東アジアにおける医療供給体制と企業の役割

○研究組織

研究代表者：石田成則、李海峰

研究分担者：中田範夫、城下賢吾、有村貞則

○研究の概要と結果

これまで、企業経営及び市場の視点から、主に東アジアに進出しているグローバル企業に従事し、その経営戦略、組織、財務、人材育成、消費者行動について研究を行ってきた。

また、東アジア諸国の人口高齢化をにらんで、医療・介護経営に特化して調査を行っている。具体的には、これまでに実施したアンケートやインタビュー調査を統計的に処理して分析するとともに、すぐれた経営力を持つ施設については事例研究としてまとめた。

また、国内3県（山口、広島、福岡）にまたがって、介護施設の実態調査を敢行し、その成果を論文にまとめた。特に、施設内の事故発生要因を、組織、勤務体制、施設整備、人材、教育の3点に絞り解析を行った。結論として、勤務体制や人材教育の在り方によって、事故の発生率やその規模が左右されることを発見した。こうした実証分析を受けて、人材の採用や育成方法について具体的な提言を行っている。さらに、退職後の医療・介護が必要な時期の個人の財務的視点からの考察も行っている。

このような視点に基づき、我が国をはじめとした先進国と中国を中心としたアジア諸国の医療制度の現状と課題、医療制度における官民保険者の役割、個別病院や介護施設の人事・財務・会計分析を展開し、また、ダイバーシティ・マネジメントと生涯雇用について、や消費者行動についてもいくつかの論文を専門雑誌や紀要に投稿し、さらに学会報告を行った。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

- ・有村貞則「ダイバーシティ・マネジメントと生涯雇用は整合的か否か」『日本労働研究雑誌』5月号、2014年5月、51-63
- ・中田範夫「B S Cに関する6回のアンケート調査－平成16年から25年における郵送調査－」『医療バランス・スコアカード研究』第11巻第1号、2014年9月、93-104
- ・Heifeng Li, Jiaoyang "Online Shopping in China: An empirical study of online consumer behavior", Proceeding of the 10th Biennial Conference of Asian Consumer and Family Economics Association, ACFEA, 2014, Taiwan, 100-106
- ・石田成則「医療保険における官民の役割分担」『保険学雑誌』第625号、2014年6月、71-92

- ・石田成則「国民保険者の財政状況とその改善策」『週刊社会保障』第2823号、24-29
 - (2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）
 - ・城下賢吾・木下真「退職後の引き出し率」生活経済学会全国大会（長崎大学）2014年6月22日
 - ・焦揚・李海峰「中国におけるオンラインショッピングの発展と消費者行動の変化」日本消費者教育学会全国大会、2014年10月4日
 - ・李海峰・孫愛叔「中国の市場経済発展に伴う消費者行動の変化」日本消費者教育学会全国大会
-

○プロジェクト名

東アジアに固有の格差の実態と推移に関する総合的・実証的比較研究

○研究組織

研究代表者：植村高久・塚田広人・横田伸子

研究分担者：横田尚俊・渡邊幹雄・濱島清・朝水宗彦・角田由佳・陳建平・石川耕三・
袁麗暉・福田吉治・小柴久子

○研究の概要と結果

（日本を除く）東アジアの経済発展は急速な新興富裕層・新興中間層の増大を伴いつつ、概して格差拡大として特徴付けられる「新しい格差」の発生と複雑な動態的变化が進むという固有の特徴を持つ。これはヨーロッパ諸国やアメリカとは明らかに異質で、たんなる所得の格差を超えて、教育・医療・生活環境・コミュニティのあり方等、非常に多面的なアクセス可能性の違いという特徴を示している。格差拡大が大きなテーマになっている日本も含めて（さらに東アジア以外の諸国との対比も交えつつ）、こうした東アジア諸国の格差について、各国ごとの差異と共通性に注目しつつ、その全体像と側面間のつながりを明らかにすることがこの研究の第1の目的である。

さらに、東アジア諸国の多くが急速な経済発展の途上で急激な高齢化を迎えることが将来の深刻な問題をもたらす可能性が高い。旧来の社会の分解が進んだため高齢化に対処するための公的社会保障制度の整備が必要となるが、ふつう社会保障制度（年金等）は制度創設から定常的な機能に至るまでかなりの期間を要する。この点を考慮すれば、格差が生む問題が高齢化によって顕現・深刻化し、非常に厳しい社会問題に発展する事態が予想される。本研究は格差の実態とともに将来に向けた推移と社会保障制度などの整備状況を検討することを通じて、急速な高齢化の社会的意義を解明することを第2の目的にする。

研究期間は3年とし、成果は研究期間終了後に図書として刊行する予定である。

なお、本年度は本プロジェクト研究の構成部分にあたるアジアの非正規雇用問題の研究について、9月に本学が梨花女子大学校との重点連携研究事業に指定した。このため、当初の研究計画を一時中断し、26年3月1日に「キックオフ・プロジェクト「非正規労働者と貧困問題」日韓フォーラム」を梨花女子大学校から3名の研究者を招き、さらにマツダ派遣切り訴訟 労働者側弁護団と非正規問題の権威、福原宏幸大阪市立大学教授を招いて開催した。

日韓フォーラムは約100名の参加者があり盛会であったほか、日韓の非正規問題の状況の違い

も明確に認識でき、今後の共同研究の出発点を確保した。次年度も共同研究を進める予定である。

なお、この成果は経済学部・東亜経済学会刊行の『東亜経済研究』26年8月号に掲載予定であり、内容は以下である。

1. 横田伸子「日韓非正規労働者と貧困問題 特集に寄せて」
2. イ・ジュヒ（梨花女子大学校）「韓国の非正規労働者の実態と社会保障」
3. ユ・ヒョンゲン（梨花女子大学校）「韓国非正規労働者の組織化の現況と新しい方策——製造業社内下請労働者の組織化を中心に——」
4. 内山新吾・大賀一慶（弁護士）「自動車メーカー・マツダの「派遣切り」裁判」
5. 友岡有紀（梨花女子大学校・大学院）「韓国における低所得層政策の歴史的展開とその現況——自活事業を中心に」